

2010年

1
月号

組合会報

〔発行所〕

埼玉県鍍金工業組合

〒331-0811

さいたま市北区吉野町2-222-7

TEL 048(666)2184

FAX 048(652)7631

〔発行人・理事長〕

仁科俊夫

〔編集人・総務委員長〕

井上宣雄

—今月号の主な内容—

『わが社の安全衛生』 専務理事 小林 満 2	視察研修旅行 8
公害防止管理者再教育研修会開催 3	たんぽぽ計画講習会 11
関東甲信越静ブロック会議開催 5	水質汚濁に係る人の健康の保護に関する環境基準の項目追加 12
第47回全国大会開催 7	



わが社の安全衛生

専務理事 小林 満 (株)小林鍍金工業



『わが社の安全衛生』という題で原稿をと、総務委員長より御下命がくだりました。

埼玉県鍍金工業組合は平成21年度、団体安全衛生援助事業（通称たんぽぽ計画）の指定をうけ、21年4月から参加希望企業の協力のもと活動を続けております。

あけましておめでとうございます。

皆様には希望に満ちて新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日本経済はいまだ迷い込んだ迷路から脱出できずに苦しんでいる

ようですが、もうそろそろ出口が見えはじめて来る、そんな年になればよいなど願っております。

もう一息の辛抱で明るい未来が見えてくるはずですのでさらなる飛躍を目指してまいりたいと思ひます。

本年もよろしくお願ひいたしま

す。そのまとめを会報にということ

で恥ずかしながら筆をとらせていただきました。

当社は戦後まもなく父が立ち上げました。初めは自宅の片隅で内職に毛の生えた程度のところからで、寒い冬の朝は仕事をしている父の眉毛、前髪が真っ白に凍つていたのが大変印象に残っています。

少しずつ仕事も増えてきたもの、生産を伸ばすことが至上命題

で職場の安全衛生は二の次だったようで、私が入社した昭和44、45年ごろは俗にいう3K企業の典型

のようでした。ゴムの長前掛け、ゴム長靴、肘までのゴム手袋とい

ういでたちでした。

その診断の結果が零細企業としてはまあまあ努力をし、それなりの体裁が整っていると評価をされ

たようで、その取り組みと活動をまとめて発表する機会が私に与えられました。

これをなんとかしたいと思つたところがわが社の労働安全対策の原点であろう。

仕事はあつても金のない企業な

ので一举にとは行けません。

できるところから少しずつ少しずつ。労働安全を頭において工場を改造したことはありません。

実際に仕事をしていて、いやだな、大変だな、効率がよくないなと思つた所をこつこつと改善をしていきました。第一条件は生産性を向上させること、品質を向上させることです。

その結果、自分が描いていた工場に近づけたのは25年ほどたつてからでした。

多くの同業者の工場を見せていただいたり、いろいろな方の協力ををお願いしたり、それなりに楽しんでやつていたのかもしれません。

まだまだやりたいことは山ほどあります。

あせらず、楽しみながら続けていくつもりです。

水の規制

片山 恭平 氏

環境保全対策委員長 石下 一明

第二講演

「化学物質管理と化管法」

講 師 埼玉県青空再生課有害化学物質担当

主任 岩村 韶 氏

講演内容

① 化学物質管理と化学物質管理促進法（化管法）

② ほう素の処理方法

- 無機凝集剤による凝集沈殿法・イオン交換樹脂による吸着法・限外ろ過法・溶媒抽出法

③ ふつ素の処理方法

④ 化学物質管理促進法

⑤ 化学物質による事故事例・P R T R 制度・排出量・移動量

⑥ 化学物質の適正管理

届出・化学物質排出量の集計・

公表・自主管理・住民の理解・

自治体の役割・M S D S 提供

義務・G H S

第三講演

「B F N (ほう素・ふつ素・窒素)

排水規制への対策について

最後に島田孝男 副理事より閉会の辞を頂き閉講となつた。

しく述べます。

講 師 ミヤマ 株式会社 埼玉営業所



平成20年12月9日(水)に埼玉

県鍍金工業組合事務所内の会議室において、10月に開催された公害

防止管理者再教育研修会に参加出来なかつた事業所を対象に、再教育研修会を開催した。

当日は10月に開催された講習会

のビデオ上映を行い公害防止への再認識と理解をして頂きました。

当組合の公害防止管理者の環境・公害等への関心の高さと前向きな姿勢は今後とも継続して頂きたい

と思つております。
来期以降も各事業所並びに関係各位のご協力のもと100%の出席を目指して、年一度の再教育研修で済みます様、ご協力の程宜しくお願い致します。

関東甲信越静ブロック会議が開催

会議は東京組合の八幡副理事長の司会で開会し、先輩・物故者に黙祷をささげた後、主催組合を代表して東京組合姫野理事長（全鍛連会長）の挨拶があった。

「関東甲信越静ブロック会議が各組合理事長のお骨折りを頂いて多くの組合の皆様にお集まり頂き、盛大に開催できた事を厚く御礼申し上げます。本日は東京都庁45階の展望室を貸切にして、日頃苦しい経営環境の中で日夜、企業の維持発展、めつき業界の発展のために努力されている皆様に、この景観を眺めながら日頃の厳しさをひと時忘れて頂ければ幸いと思いましてこの場所を設定させて頂きました。さらに、このブロック会議でのいろいろな出会いと新たな絆を大切にしながら、業界発展のために力になれればと願っております。

さて、我々の業界は大変厳しい現実があり、来年6月には、ほう素・ふつ素等の暫定基準期限が切



平成21年10月16日（金）関東甲信越静ブロック会議が東京都鍛金工業組合主催にて、東京都庁第一本庁舎南側展望台45階「東京カフェ202」で東京の夜景を展望しつつ1都10県の工業組合から93名の参加で開催された。

れることとなります。このため、全鍛連では環境委員会にて、暫定措置をいかに継続して頂けるかを詰めている状況であります。各組合には様々な調査をお願いしておりますが、その回答を頂いた皆様のデータを基に関係官庁へご理解を頂く根拠としております。全鍛連では今後も暫定基準の再延長

されることがあります。このため、張ってゆきたいと思っております。本会議では各組合代表の皆様から忌憚のないご意見を頂き、充実した会議にしたいと思いますので、ご協力をお願い致します。」

次に、全鍛連報告として、近藤専務理事から「8月に開催された経済産業省の『子供見学ツアー』で各種めつき製品の展示を行ない大盛況であった。お手伝い頂きました東京組合並びに事務局の協力のおかげとお礼を申し上げます。また、昨年までは各組合より全鍛連等に対する要望により、その回答をブロック会議で行なつてきましたが、今年は、各組合の課題及び自ら解決した内容、めつき業界が今後発展するにはどのようにしていくべき良いか等を、いただいた回答を基に図でまとめて頂きまし



社を切ろうという状況にあり、寂しい限りだが、今後もアウトサイダーの加入促進や、公害防止管理者の再教育を徹底して行なっていく。また、5月の総会にて仁科理事長を選出するとともに役員の若返りを図り若い力で組合運営並びに今後の組合発展に貢献して頂きたい。

○ 静岡組合 ○

暫定基準をそのままお願いする事となつてはいる。ただし、適用事業所は減らすようにしたいと思う。また、硝酸性窒素については今後規制強化の方向で考えております。全鍛連は経済産業省非鉄金属課を通じて、環境省と交渉し暫定の延長をお願いしているところです。」

続いて、各工業組合から次のように状況報告があつた。

○ 神奈川組合 ○

昨年より組合加入数が減り75社から68社になってしまった。しかしこの景気が底打ちをしたかまだ先が見えなく「一番底があるとも言われております。他の都県と同じく景気回復を願っている。

○ 新潟組合 ○

仕事量は半分から3割と業種によると従業員も1割ほどの減少となつてはいる。ほう素等の排水処理、土壤汚染対策の勉強会を県の担当者を呼び開催するべく企画しているところである。

○ 長野組合 ○

長野でも深刻な状況が続いている。松下幸之助氏の話で、「好景氣よし、不況もよし」ではないが、この時期に従業員を鍛え体質強化をするべく再教育を行なつている。組合の役割は何か、時代は変わり環境問題が話題となり排水関係だけが大事ではなく、金属回収事業も重要であると思う。全鍛連や関連団体と協力して、全国組織で活動してもらえば組合意識が高まるのではないかと思つてはいる。

○ 群馬組合 ○

今年のめつき要覧で群馬組合の資料は以前の資料を提出してしまつたため、改めて今年度資料を提出させて頂きました。

第二部では、経済産業省非鉄金属課の田端課長、東京都産業労働局の前田局長を招き、国・東京都の政策について情報提供がなされた。その後の懇談会では、旧交や絆を深め、様々な情報交換を行ない有意義なひと時を過ごした。



『全国鍍金工業組合連合会
第47回全国大会』

【糾と挑戦】～強いきずなどで
むすぶ、ものづくり「みんなで考
え、みんなで挑戦」～

平成21年11月27日(金)東京都港区芝公園の機械振興会館において全国鍍金工業組合連合会 第47回全国大会が各都道府県鍍金工業組合関係者、所管官庁及び学術団体により多数参加を得て盛大に開催され、埼玉県からは、9名が参加致しました。

はじめに、開会の辞の後、国歌斉唱、先輩・物故者の黙祷の後、主催者を代表して姫野 正弘 全鍍連会長より挨拶があつた。

「この厳しい環境の中で、全国より出席を賜り第47回全国大会が開催できた事をお礼申し上げま

す。本日はご来賓頂いた方々やそれぞれの業界に貢献して頂いた方々を表彰させて頂きたいと思います。振りりますと本年は

100年に一度と言われる大変厳しい経済環境の中で、昨年は全鍍連の60周年の歴史を迎えることが出来ました。これから次の世代が向けて『強い糾と挑戦』をスローガンの基に業界団体一致結束をして、この厳しい時代を乗り越えて

いくべく皆さん共々と頑張つていきたいと思います。戦後なにも無い所から今日の豊かな社会を作り上げて来た原動力は「もの作り」であります。その技術を支えているのは「めつき技術」だと思います。このめつき技術が無ければ今日の豊かな文明社会は無いと思いま

すので、大いにこの職業に誇りをもつて次の世代へキチッとしたかたちで繋げることが我々の仕事だと思っております。」と述べた。

全国鍍金工業組合連合会会長賞
銅賞【装飾クロムめつき部門】
有限会社 今井メック工業所
株式会社 真工社
Team M-1 (309)

議案審議も滞りなく承認され、来賓紹介、万歳三唱の後、閉会の辞をもつて閉会となつた。
第二部は会場を6階会議室に移し懇親パーティーを開宴した。

全国鍍金工業組合連合会会長賞
銅賞【装飾クロムめつき部門】
有限会社 今井メック工業所
株式会社 真工社
Team M-1 (309)

多くの人材を関東学院大学の本間研究室で育成された功労に対しても表彰された。今回の全国大会で賞を受賞された埼玉県の方々は、左記のとおりです。

今回の全国大会で賞を受賞された埼玉県の方々は、左記のとおりです。

卓越した技能者表彰は菅沼 延之氏(名古屋メック工業株式会社(愛知県鍍金工業組合)が表彰された。

統いて議事に移り左記内容の議案審議が行なわれた。

議案1 第46回全国大会決議事項の経過報告

議案2 第47回全国大会宣言(スローガン)案



視察研修旅行～新日本製鐵株式会社君津製鐵所(千葉県君津市)～

埼玉県鍛金工業組合は、平成21年10月18日(日)～19日(月)の2日間、視察研修旅行を開催した。

初日は横須賀～フェリーにて東京湾横断～南房総散策、二日目は新日本製鐵株式会社 君津製鐵所見学と、横浜中華街散策の行程となっている。

早朝8時15分大宮ソニックスティ周辺のバス乗り場へ集合、午前8時30分参加者38名を乗せた観光バスは一路、横須賀の三笠公園へ出発。

首都高速・横浜横須賀道路を経由して三笠公園に到着。この公園は日本の都市公園100選にも選ばれており、公園を入って正面に東郷平八郎連合艦隊指令長官の銅像が建ち、右後ろ奥に日露戦争で旧帝國海軍が使用していた戦艦三笠が記念艦として、保存されている。この戦艦三笠の艦首は皇居の方向に向けられており、さらにそ

のまま直線状にはロシアへ向けられている。また、世界の三大記念艦

として、イギリスのHMSヴィクトリー号・アメリカのUSSコンステイチヨン号と並んで保存されている戦艦ではあるが、他の2艇が木造船に対して唯一鋼鉄船が選ばれている。

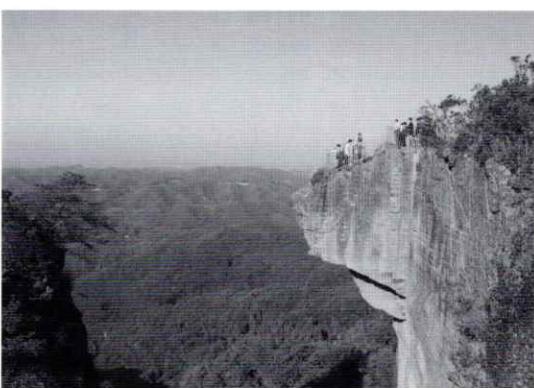
公園を散策後、公園から少し離れた所に地元で有名な『横須賀海軍カレー本舗』があり、そこで昼食をとった。今では見慣れたカレーですが、明治時代の海軍では栄養不良で脚気にかかるて亡くなる兵士が多かったようです。そのため栄養バランスの良い食べ物としてイギリス海軍の兵食にあつたカレーシチューを参考に、日本のご飯と合うようにアレンジされた物が故郷に帰った兵士たちによつて全国に広まつたと言われています。お店で食べられるメニュー内容はカレー・サラダ・牛乳と、今まで

も海上自衛隊では同じメニューが食べられているそうです。

昼食後、一路久里浜フェリー乗り場へ向いフェリーにて南房総へ

と出航、普段なにげなく見ている東京湾も船から見る風景はとても新鮮で、海鳥としばし戯れながらクルージングを楽しみました。途中、普段見る事がないであろう海上自衛隊の潜水艦3艦と遭遇、浮上した状態でフェリー前方を横断する光景は圧巻でした。

フェリーは50分ほどで千葉県富津市の金谷港へ入航、バスは国道127号線を通り関東最古の勅願寺である日本寺へ到着。このお寺は鋸山の南側斜面10万坪余りを境内としており、豊かな自然の中を散策しながら、大仏様(薬師瑠璃光如来)、百尺観音像、千五百羅漢石像群など1553体の觀音様をお参りすることができるお寺で、文豪の夏目漱石や正岡子規が訪れた



地としても有名です。また、お寺の階段数が2639段もあり日本で二番目に階段の多いお寺としても有名だそうです。

はじめに山頂近くの駐車場から20分ほど階段を登り、江戸時代に石切り場であった山頂近くにある『地獄のぞき』を散策、この石切り場の高さは約100メートルあり

断崖絶壁から突き出した展望岩からは東京湾や房総半島を一望でき、周りを見れば絶景、下を見れば地獄とギャップのある風景を望むことができます。その後、観音様をお参りしながら階段を下り薬師瑠璃光如来の大仏様をお参りしました。しかし、下へ降りてきたのは良かつたのですが、駐車場へ戻るにはまた来た道を今度は登るしかなく、急遽バスを下の駐車場へ移動してもらうというハプニングもありました。

一行は日本寺を後にし40分程バスに揺られた後、本日の宿泊先である木更津 龍宮城スパホテル三日目に到着。

宿泊室内から東京湾に沈む夕日を眺められる部屋へ通されると、早速、疲れた体をこのホテルの目玉でもある各種変わり風呂に入り今日一日の疲れを癒した。

その後、午後6時から「さつきの間」にて懇親会を開催、仁科理事長の挨拶の後、島田副理事長の乾杯にて開宴、楽しい懇親会を和やかに懇談した。



翌日、19日(月)午前9時30分に宿泊先を出発、館山自動車道を通り一路視察研修先の「新日本製鐵株式会社 君津製鐵所」へ向かった。

バスは君津製鐵所内の研修ホール前へ到着。まずは、この製鐵所の概要・歴史などの映画を交えながら説明を受けました。説明が終ると、全員バスに乗り込み、最初の見学場所プラスチックリサイクルセンターへと向かつた。構内は

見渡す限り広く、敷地面積は東京ドーム220個相当の1169万m²にもなり、とても徒歩での見学は無理という事でバスを使用しての移動となつていて。周りは茶褐色に染まつた建物や、灰で覆われた自動車、敷地内に製鐵運搬列車が走つている一風変わつた風景が目に付いた。

プラスチックリサイクルセンターは現在、自治体・市民・関係団体のもとに、資源循環型社会の確立を目指して取組んでおり、近隣や他の提携団体から集められたプラスチックゴミを選別し、使用できる資源ゴミから40%をプラスチック原料の再利用として再生し、20%を鉄のコークス高炉へ投入される還元剤として再利用され、残りの40%がコークス炉から発生する燃料ガスを利用して製鐵所内の発電などに利用されています。

リサイクル設備はほぼ自動化されているものの、細かい仕分けや、自動で取りきれないライターやクリスマスゴミなどは手作業で細かく分別



していた。この行程を各フロアでどの様に分別・破断・熱分解前の圧縮造粒物へと変化していく流れを説明して頂きながら見学させて頂きました。

次にバスは第四高炉へと移動。平成7年9月に天皇来訪やテレビドラマで放映された高炉前に到着。遠くからあつたがコーケスから取り出された銑鉄がオレンジ色の撮影で使用された華麗なる一



ジ色に輝きながら運搬専用の貨物列車の壺の中へと流れ込む様子を見ることが出来た。一行は第四高炉をパックに集合写真を撮影した後、他で特定の大きさへ鋳造された鋼の塊(スラブ)を、客先の発注に合わせた厚さと大きさに圧延される工程の施設へと移動した。この圧延工程は、まだ赤々とした厚さ $400 \times 2000 \times 3000\text{ mm}$ の長方形に成形された塊を前処理工程にて表面の錆び・汚れを水洗

し、第一圧延工程にて伸ばされるのだが、大型のプレス機に吸い込まれ、伸ばされでは戻される工程を5~6回繰り返し、徐々に大きな長方形へと伸ばされて行く様子を目の当たりに見学することができた。圧延をするプレス機から見学している場所まで15mほど離れていたものの、熱気や伸ばされる時の音や振動・水洗される時の蒸氣などは圧巻であった。

工場見学も終わり一旦研修ホールへ戻り質疑応答をした後、新日本製鐵君津製鐵所を後にした。

バスは、館山自動車道から、東京湾アクアラインを通り、海ほたるSAに立ち寄り小休憩した後、一路横浜中華街へと移動、遅い昼食となつたが中華街でも有名な『招福門』にてフカヒレコースに舌鼓、紹興酒を飲みながら今回の視察研修を振り返りつつにぎやかな食事会となつた。中華街を30分ほどではあつたが散策した後、バスは帰路へと向かい、午後5時30分ごろ、大宮ソニックスティに到着、無事に今回の視察研修旅行を終了した。

『めつき競技会』審査を開始

技術委員長 饗場 功治

10月末日に締切りとされた、第

52回埼玉県めつき技術競技会の審査が、12月10日に埼玉県産業技術総合センターにて行なわれました。今年度より技術委員長に任命されましたため、この競技会の

流れや、審査手順など実は分からぬ事が多く勉強する日々でおりましたが、今回こちらの紙面を埋めるべく投稿の依頼を頂いた事を機に、実は思つたより知られてはいないのではないか?と思われる

この競技会と審査の状況を皆様にご理解頂けるかと思います。参加の申込みから審査、表彰式までは毎年同じスケジュールにて組まれておりますため、年に一度の技術チェックとして健康診断をされるおつもりでお考え頂き、埼玉県のめつきの技術力を維持・向上する指標として重要なものになると存じます。この競技会は全国的に見ても稀な程長い歴史を持つめつき専門の競技会となっています。埼

審査は、産業技術総合センターにて事前に実行なわれた膜厚審査

では、厳密なる測定が測定面によるバラつきを浮き立たせ難しさを認め致しました。

審査は、産業技術総合センターにて事前に実行なわれた膜厚審査では、厳密なる測定が測定面によるバラつきを浮き立たせ難しさを感じ、耐食性審査では、例外はあるものの平均的に差の少ない結果となっていました。残る外観検査で

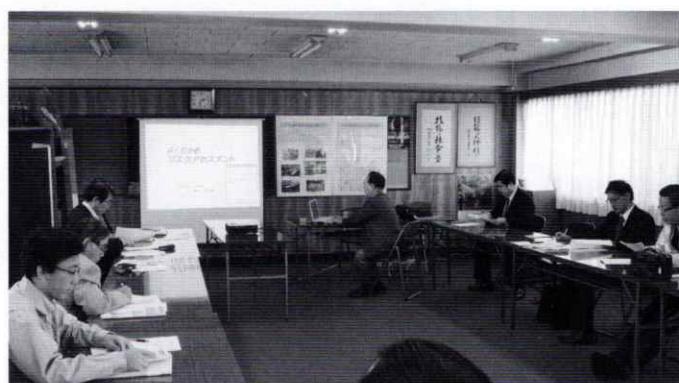




は、2つのクロム部門では歴然とする差はありませんでしたが、亞鉛部門では審査員が困惑する程、使用メーカーにより3価クロメートの色が違い、過渡期とはいえた工場ユーザーも悩んでいるのではないかと推測されました。

今年度も、ほぼ例年と同じ参加数にての開催となりましたが、埼玉県の技術力と競技会の存在意義の双方を高められる様に、皆様のご意見を伺いながら変化に臆することなく進めて参りたいと考えておりますので、ご協力の程よろしくお願い致します。

講習会では、リスクアセスメントの説明と、危険を回避するためにはどのような対策を行うか、また、危険の発見と重篤度・発生の可能性・優先度などの見積りを行い考える事で危険回避やケガを減らす事が可能であると説明を受けました。



意外と知られていないのですが、企業の安全管理として、常時10人以上50人未満の労働者を使用する事業場ごとに安全衛生推進者を選任しなければならないとされていました。

この講習会は事業主の安全衛生責務を再認識する事が目的で、埼玉県鍛金工業組合から講師として小林満専務理事が講演されました。講習会は午後5時まで行なわれ労働安全並びに労働災害と四責任など経営者としての安全衛生に対しての取り組みを再認識されました。



タンポポ計画講習会 ～めつき作業におけるリスクアセスメントの進め方～

平成21年10月29日(木)組合2階会議室にて、たんぽぽ計画参加企業の11名の参加のもと『めつき作業におけるリスクアセスメントの進め方』と題して環境安全コンサルタントの横尾先生に講演して頂きました。

います。まだ選任されていない企業も多いかと思いますので、この機会に安全衛生管理に取り組んでいただき各職場での危険をもう一度再確認し、改善を図つてはいかがでしょうか。

「経営者安全衛生講習会」を開催

